

Nippon Flower Designers' Association
2001, November
フラワーデザイナー

11

f
l
o
w
e
r
d
e
s
i
g
n
e
r



NFDインタビュ
草の布作家

矢谷左知子

花文化の系譜

菊の芸術

ハーブ&クッキング

香草オムレツ(トマトソース添え)

トルステン先生。器にこだわって作品を制作することが信条とか。優しい笑顔と柔らかな語り口が人気でした。



オールドローズをふんだんに使って、ぜいたくに。骨組みに挿して支えています。香りも十分に味わって。楽しい散歩のあとの食事ときに飾ります。ドイツでは散歩好きな人が非常に多いとか。



ドライのアシと木の樹皮を使って器を作りました。下に水盤を置き、そこから水を吸い上げるように。器の形にあわせてカラーやユーカリでラインを作ります。

竹を使った骨組みを器に仕立てて、動きをテーマに。花材1本1本が伸びやかに生きるように生けます。スタンディングシュトラウスとも言えますが、ケヴィンデ(束ねたもの)と呼びます。オフィスなどに飾ると似合いますね。



受講生の作品



修了式のディナーでは、受講生の作品が実際に飾られました。

小さいカボチャを器にしてみました。

スキャンボ(イタドリ)を花器に見立てて。アジア風の素材の人気のここ数年、特に高まっているとか。





デ・カルネ校長と講師の2人とともに。



ジルビア先生が経営するフラワーショップのディスプレイ。花店というイメージよりもかわいらしい雑貨屋さんという雰囲気。

日々生まれるフラワーデザイン 作り手と生活者がデザインを楽しむ

ドイツでは個性がとて大切にされ、その個性が生きている作品が花店の店頭でよく売れるそうです。

切り花よりも作品を求められることが多く、店頭には、ディスプレイ重視で作品を創ります。というのも、同僚の誕生日だから、デートだからと、会社に出勤する前の人々が日常的に訪れ、ただの切り花ではない“作品”を買い求めるからなのです。

趣向をこらしたシュトラウスや小さなアレンジメントを買ってプレゼントしたり、家のダイニングテーブルやオフィスなどの身近なところに飾ったり、作り手以上に生活者がフラワーデザインを楽しんでいる様子がうかがえます。

だからこそ、オリジナルのデザインを日々考え、制作し、そしてさらに勉強し続けることがフローリストマイスターには不可欠なのです。そこから生まれたデザインが新鮮なものであったり、流行的であったりするのうなずけます。

ドイツのフラワーデザイン界を支えているのは、こうしたフローリストマイスターたちであり、そして、何より、花を楽しむ生活者たちなのかもしれません。

クリスマスの準備は お済みですか？

LION



あなたの感性にあう一本が、
きっとみつかります。

生花はもとより、ドライフラワーまで、
花材、デザインを選ばない
ひろがりのある
製品を多数取りそろえています。



MW TEXTURE
25-31(1012)17mm
402(907)
G1 GOLD



MW HAMMOND
25-64(152)15mm
402(907)
G1 MOBY

ショールームがございます
お気軽にお立ち寄りください

ホームページをリニューアルしました。

ライオンリボンカンパニー日本総代理店
株式会社 インターコンティネンタル
インダストリーズ ライオンリボン
〒111-0032 東京都台東区浅草6-22-9 タニオカビル
TEL.(03)5603-4881(代) (03)5603-4882
FAX.(03)5603-4884
<http://www.lion-ribbon.co.jp>

○地下鉄銀座線・浅草駅より徒歩8分または、都バス・浅草7丁目バス停そば